

■Major League Fishing Japan Kasumi BMC Series ルール

<エントリーおよび参加資格>

- ボーターは18歳以上で、なおかつ2級小型船舶操縦士以上の資格を有している者に出場資格を与える。
- コ・アングラー登録希望者に年齢制限は設けないが、18歳未満の希望者は保護者の同意書を提出すること。
- すべての出場選手は「スマートスケール」アプリを自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。また登録名はニックネームではなく、本名で行うこと。
- MLF Japan が主催するイベント（以下、イベント）では船体全長18フィート以上、エンジン175hps以上のボートを使用すること。
- 使用するボートは必ず船舶保険（対人、対物、搭乗者への補償があるもの）に加入していることを条件とする。
- 出場選手は円滑かつ効率的なコミュニケーションを確保するため、携帯電話番号とラインアカウント、メールアドレスをオフィシャルに提供する。登録情報に変更が生じた際は、速やかに報告すること。
- イベントで撮影されたすべての写真および動画はMLF Japanに帰属する。またイベント中、カメラマンまたは固定カメラによる撮影を行う。撮影された素材はMLF Japanのライブ配信、ウェブサイト、SNS各種、および印刷物などに使用する。
- イベント全戦でライブ配信を実施する（一部、外部業者に委託する場合もある）。したがって選手個人によるライブ配信はこれを認めない。また、YouTube等SNS用動画の撮影を行いたい場合は、事前にオフィシャルの承諾を得ること。
- 有人カメラが同船する選手は直前にMLF Japanで行うファン投票によって決める。
- すべての出場選手はMLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書（エントリーシート裏面）に署名すること。

MLF Japan Entry Sheet Event	
Name	Mobile Phone
Entry Boater・Co-Angler	Partner
Boat No. Engine	Engine Belt No.
Tackle Check	
小型船舶操縦士免許	ライブウェル確認
船舶検査証・船舶検査手帳	ギルスイッチ
船舶保険証書(写し)	エンジンベルト
赤バケツ	ライフジャケット(桜印)
救命浮環	トーナメントジャージ
救命胴衣	スマートスケールアプリ
信号紅炎	新利根漁協遊漁券
笛	

※右欄の二にチェックする。該当しない項目には斜線を入れる。

エントリーシート（表）

トーナメントアングラーの誓い

私は、Major League Fishing Japan が主催するイベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。

- ・主催、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。
- ・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告します。
- ・フェアな環境下で釣果を競い合うイベント本旨に従い、他メンバーに不当な要請をしません。
- ・アングラーの共通資産であるフィールドを守るため、環境保護に努めます。
- ・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑義が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。

本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が判明したイベントに限らず、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額を直ちに返金します。また、違反内容によっては、刑事訴訟や別途の損害賠償請求を受ける可能性があることも十分に理解して、本イベントに参加します。

年 月 日
(自署)

エントリーシート（裏）

<スポーツマンシップ>

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラ（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒涇的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 受付および表彰式の際、トーナメントジャージの着用を義務とする。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、デッキに落とさない、リリースまでライブウェルに一時的にキープする、などの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スタッフ、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。

<エントリーフィー>

- ◆ MLF Japan に出場する選手は下記のエントリーフィーを支払わなくてはならない。
 - ボーター
 - 入会金：¥44,000
 - 年会費：¥66,000
 - エントリーフィー (1day)：¥27,500
 - エントリーフィー (2days)：¥38,500
 - コ・アングラー
 - 入会金：¥44,000
 - 年会費：¥33,000
 - エントリーフィー (1day)：¥11,000
 - エントリーフィー (2days)：¥16,500
 - ※金額はいずれも消費税込み。
 - ※入会金は1年以上のブランク（未登録）があった場合、再登録する際に改めて¥44,000の支払いが必要。
- ◆ 入会金および年会費は「Smart Scale」アプリからの一括での決済とするが、各イベントのエントリーフィーはそれぞれ指定した期日までの決済も可とする（一括での決済も可）。

<MLF Japan イベント開催時>

◆ タックルチェック

- 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
- イベント出場時に着用するライフジャケットは、桜マーク（国土交通省）がついているものに限る。

◆ 受付

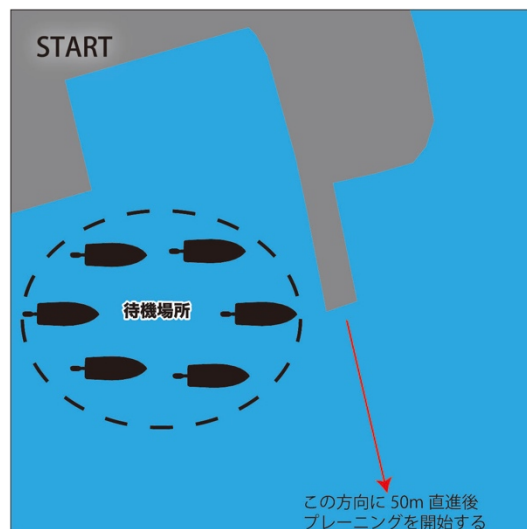
- 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
- 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
- エントリーシートを提出する。

◆ ミーティング

- 規定の時間にミーティングを行う。ミーティング時は必ず、トーナメントジャージを着用して出席すること（雨天時および極寒時はジャケットの着用を認める）。
- ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。

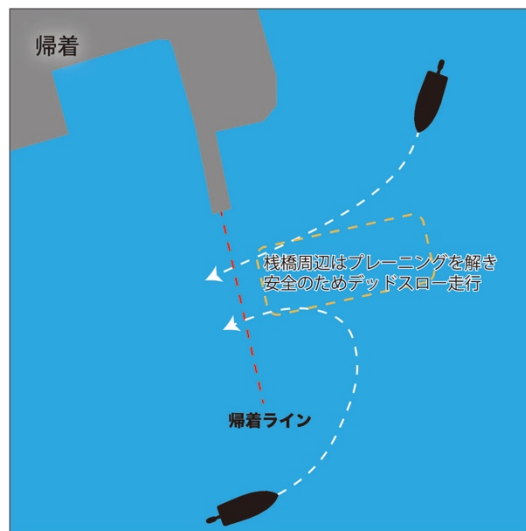
◆ スタート

- 番号の若いほうから順にスタートとする。2days 開催の場合、2 日目は初日のウェイトが高い方から順にスタートする（同ウェイトがいた場合は初日のフライト順の逆）。
- オフィシャルに自分のスタート順と名前をコールされたら手を挙げて合図を送り、OK が出たあとスタートする。
- スタートは大山スロープ東端にある突堤より、南方向にアイドリングで 50m（目安）直進後、プレーニングを開始すること（下図参照）。
- スタート順が遅い選手は邪魔にならないよう、突堤よりも西側で待機すること。



◆ 帰着

- 突堤先端から南に 50m の延長線をゴールラインとし、東側から進入すること。小野川方面からの帰着時も同様に、東側からの進入をもって帰着とする（下図）。
- 帰着時は混雑が予想されるため、船列に並んでいれば帰着時間を過ぎてもペナルティは課さない。ただし、プレーニングを解いていることを条件とする。
- 帰着は突堤先端に待機するオフィシャルに、自身のフライトプレート掲げ、「OK」の返答をもって完了とする。



- ランチング後、先にスマートスケールの QR コード読み込みを行う。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、帰着は完了していても失格・スコア取り消しとなるため注意。
- 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。またこの際も、必ずトーナメントジャージを着用すること。

<イベントルール>

- MLF Japan に出場する選手は、トーナメントジャージの着用を必須とする。トーナメントジャージには MLF Japan が規定する 2 種のロゴを規定サイズに則って掲出すること。掲出は胸より上の、できるだけ目立つ位置に入れること。



MLF Japan ロゴ



Kasumi BMC Series ロゴ

- 2024 シーズンモデルのトーナメントジャージ着用を認めるが、上記規定に基づくロゴ掲出のため、「MLF Japan」ロゴおよび「Kasumi BMC Series」ロゴの熱転写アイロンプリントを必要に応じて事前に支給する。
- MLF Japan Kasumi BMC Series はボーター選手とコ・アングラ選手によるペア戦とする。
- ボーター選手とコ・アングラ選手のペア決めは抽選を実施する。抽選はイベント開催前週の金曜日に行い、その模様をライブ配信する。
- 抽選の結果によっては前回開催時と同じペアになることもあるが、再抽選は行わないものとする。
- 各イベントのエントリー状況によって著しくコ・アングラが足りない場合、年間ランキングが下位の選手から順に抽選でコ・アングラが同船とする。年間ランキングが上位の選手はソロでの出場となる。
例) ボーターが 40 人、コ・アングラが 15 人のエントリーだった場合
→年間ランキング 1～25 位までの選手は単独出場
→年間ランキング 26～40 位までの選手は抽選で決まったコ・アングラが同船
- ライブ配信のカメラ (4 台) およびオブザーバー、または雑誌等外部メディアの取材が同船する際も、ボーター単独での出場とする。なお、カメラマンおよびオブザーバーによる、釣りに関する一切の手助けを禁止する。ただし、スマートスケールに登録するための写真撮影は、これを認める。
- イベントのスコアはボーターとコ・アングラが釣ったバス 3 匹までとし、そのウエ

イトがボーターの年間成績に反映される。なお、コ・アングラーは自身が釣ったバス（入れ替えし、リリースしたバスも含む）3匹までを年間成績に反映する。

- 年間ランキング（Angler of the Year）はボーター、コ・アングラーともにそれぞれの年間5戦の総重量によって決める。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは3分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。なお、緊急事態でない限り、移動後の計測は認めない。
- ボーターは常に安全な速度と操船を心がけること。同船のコ・アングラーに対しても、安全を第一とした配慮を行うこと。
- コ・アングラーは競技中、常にボーターの指示に従うこと。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁118にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日7:00am時点で「ウェザーニュース」アプリを参考に美浦村大山を基準とし、風速8m以上の予報が出ている場合は中止とする。なお、Day2開催日の予報で天候が回復することが予想される場合、期間短縮による開催とする場合もある。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- 霞ヶ浦、北浦、利根川水系を守るための活動の一環として、遊漁承認証の購入を義務付ける。なお、バスプロサポート事務所で当日購入することも可能だが、その場合は前日までの連絡を必須とする。
- 直前にコ・アングラーのキャンセルがあった場合、ボーターのみでの出場を認める。ただしキャンセルが分かった時点で速やかに運営本部に報告すること。またその場合、ボーターは無人カメラを設置する。
- 競技時間中、コ・アングラーの体調不良等で棄権となった場合、ボーターは速やかに当該選手を本部まで送り届けたあと、競技の続行を認める。なお、棄権したコ・アングラーはその時点でのスコアを成績とする。
- ボーターの体調不良等による棄権となった際はコ・アングラーも棄権とし、その時点でのスコアを成績とする。
- エンジントラブル等により競技続行不可能となった場合、ボーター、コ・アングラーともに失格とする。
- ボーターはコ・アングラーに、上限¥5,000までの燃料代を請求できる。ただし精算に関して、オフィシャルは一切関与しない。

＜競技ルール＞

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。ただし、ソロ出場とペア出場の公平性を保つため、ラインディングネットは必ず魚を掛けた本人が使用すること。ペアの相手が掛けた魚のランディングを援助することは禁止とする。
- 資源保護の観点から、スコアブルバス（※キーパーサイズ）は 300g 以上とする。
- イベントではその日にボーター選手とコ・アングラー選手が釣ったバス 3 匹の重量で順位が決まる（艇単位での成績）。
- 釣りはルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない（アラバマリグはフック 1 本、またはハードベイト 1 個のみ認める）。
- 一度に使用できるロッドは 1 本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- 陸に上がっての釣りは禁止。ただしボートの位置を保持するため、木杵や護岸などに片足をかける行為はこれを認める。
- 本湖から見てひとつめの橋までは、下船して艇を押すことは禁止。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇について運営本部で協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、永久追放とする。またこの場合、過去に獲得した賞金を全額返金する。なお、年利 4 % の利息を付加する。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。
- エンジンまたはエレクトリックモーターを使用したドラッキング（トローリング）は不可。
- 琵琶湖でのイベント開催時、滋賀県の「外来魚リリース禁止条例」により、釣った魚の処理は自己責任とする。

<検量>

- MLF Japan イベントにおいて、スコアブルバスは 300g 以上とし、その重量未満のバスはスコアとして認めない。
- MLF Japan イベントはデジタルウェイトインとし、スコア集計は「Smart Scale」アプリを使用する。そのため、参加選手は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録の際、ニックネームではなく本名を原則とする。
- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 競技中に釣ったバスはボーター選手、コ・アングラ選手にかかわらず、必ず釣った本人が扱うこと。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量で使用するデジタルスケールは持ち上げた状態で電源を入れ、魚を吊るす前にゼロが表示されていることをコ・アングラまたは無人カメラに見せる。
- 無人カメラの選手は、検量に関する一連の動作は必ずカメラの前で行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態で、スコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する（①）。さらに規定のメジャーを使用して、魚の全長がわかる写真を撮影する（②）。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する（③）。この撮影は基本的にペアの選手（ボーター選手が釣った場合はコ・アングラ選手、またはその逆）が行う。釣った本人は①～③の画像を「スマートスケール」アプリで申請する。
- デジタルスケールにバスを吊るしたあと、魚体に触れることは厳禁。ただし魚が暴れて外れそうになるなど、魚の保護を目的として触れることはこの限りではない。
- デジタルスケールは、必ず本体上部にある取手部分を掴むこと。本体側面を持った状態での撮影はこれを認めない（下図参照）。



- デジタルスケールの故障などにより計測できない場合はライブウェルにキープし、帰着時に本部立ち会いのもと計測を行う。ただしキープについては魚のケアに細心の注意を払うこと。なお、デッドフィッシュはマイナス 500g のペナルティーとする（※デッドフィッシュとはエラが完全に止まっている状態の魚のことを指す）。
- 諸事情により単独出場となった場合、上記に基づく申請を行った後、魚を持った状態で 5 秒間、艇に備え付けたカメラにスコア（デジタルスケールに表示されたウエイト）を見せること。
- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点からライブウェルに一時的にキープする。また、その魚はスマートスケールからの申請が承認されてからリリースすること。なお、リリースは必ず釣った本人が責任をもって行うこと。
- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れてデッキに落ちることのないよう、ライブウェルの上、またはランディングネットを下に構えるなどの配慮をしたうえで一連の行動をとること。
- オフィシャルからの承認が得られるまで、釣ったバスは一時的にライブウェルにキープする。承認が届き次第、当該バスはその場で速やかにリリースすること。
- オフィシャルが釣ったバスの持ち帰りを指示する場合もある。その際はライブウェルでキープし、会場まで移送する。魚のケアには十分配慮すること。
- リリースする際はガンネルの高さより下で行うこと。バスをひっくり返したり、投げたりする行為はリリース違反とし、ペナルティの対象とする。

＜使用艇に関する注意＞

- 出場選手がイベントで使用する艇は船体全長 18 フィート以上、搭載エンジンは 175hps 以上とする。船舶検査証の記載事項と実際の使用艇に相違がある場合、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない。
- リチウムイオンバッテリーを搭載する際は、「船検承認」を受けることができる物に限る。
- リチウムイオンバッテリーを搭載した船を、Day1 終了後、霞ヶ浦トーナメントプレイスに駐艇して帰る場合、船内充電は厳禁とする。船から一旦おろし、指定の場所でメーカー指定のチャージャーを使用して、充電を行うこと。
- 2025 年シーズンは魚探画面の大きさやモニターの枚数、ライブソナーの機種や個数に関する制約は設けないが、本国 MLF の動向や国内情勢も鑑みて、シーズン中でも変更する場合がある。
- 艇を運搬するトレーラーは、ナンバーの取得を必須とする。なお、諸事情により仮ナンバーで出場する際は、イベント開催 3 日前までにオフィシャルへの申請を必須とする。
- 法定備品は必ず積載しておくこと。
- キルスイッチはライフジャケットに装着し、エンジンを使用するときのみセットすること。
- ガソリンについて艇に装備されているタンク以外の携行を認めない。万が一、競技中に燃料が不足した場合、オフィシャルに一報を入れ、承認を得たうえで給油を認める。
- オフィシャルに申請している艇と異なる艇を使用する場合、事前に届出を行うこと。
- 使用する艇には必ず、MLF Japan 規定のエンジンベルトを装着すること。不備があった場合はペナルティを課す。

<成績について>

- MLF Japan 全戦において、スコアブルバスは 300g 以上、ボーター選手とコ・アングラ一選手が釣ったバググリミット 3 匹の総重量によって争う。
- 各イベントにおいてボーター部門、コ・アングラ一部門、それぞれ 5 位までを表彰対象とする。

(例)	ボーター	コ・アングラ一	スコア
1 位	A さん	※ソロ出場	3,500g
2 位	B さん	※ソロ出場	3,200g
3 位	C さん	※ソロ出場	3,100g
4 位	D さん	K さん	3,000g
5 位	E さん	L さん	2,900g
6 位	F さん	※ソロ出場	2,800g
7 位	G さん	M さん	2,700g
8 位	H さん	N さん	2,600g
9 位	I さん	※ソロ出場	2,500
10 位	J さん	O さん	2,400g

※この場合、ボーター部門の表彰は A さんから E さんまで。コ・アングラ一部門の表彰は K さん、L さん、M さん、N さん、O さんとする。なお、コ・アングラ一部門の成績も艇単位となるが、年間成績は自ら釣ったバスのウェイトのみ積算する（コ・アングラ一の年間ダービーについては、艇のスコアとしない）。

- 年間 5 戦の総重量に基づき年間順位を決定し、上位 3 名を表彰対象とする。
- 年間順位上位 10 名のボーターおよびコ・アングラ一は MLF Japan クラシックにクオリファイできる。なお、クラシックについて辞退する選手が出た場合は繰り上げ出場とする。

<エリアについて>

- 霞ヶ浦全域、北浦全域および利根川とする。いずれも流入河川と支流を含むが一部、禁止エリアを設けているので注意。
- 流入河川は河口を結んだ線からデッドスローとする（小野川は古渡橋から上流をデッドスローとする）。
- 4月15日から6月15日まで、すべての粗朶消波工（通称：木ジャカ）の内側は釣りおよび進入禁止エリアとする。

【禁止エリア】

- 湖水面保全保護区内
- 横利根川、新川、前川
- 北利根川から与田浦に入る上下2本の水門
- 与田浦全域
- 各ドック内（緊急避難時を除く）
- 長門川河口水門前より上流から若草大橋まで（千葉県側・北総マリンスロープ周辺）
- 長門川、将監川、建設省ワンド内
- 潮止め水門ブイの内側と水門下流域

※水門開閉時、潮止め水門には近寄らないこと。

【デッドスローエリア】

- 小野川全域
- 妙岐水道
- 北利根橋（国道51号線）
- 潮来大橋手前20m（霞ヶ浦本湖側）からJR鹿島線の先20m
- JR鹿島線鉄橋～神宮橋
- 息栖大橋（千葉県側を航行）
- 常陸利根川橋
- 霞ヶ浦大橋
- 各流入河川内（霞ヶ浦、北浦、利根川）

※恋瀬川は河口部が浅いため、周囲への配慮を前提にスロー走行可とする。

- 北総マリンスロープ周辺
- 黒部川全域

【スローエリア】

- 鹿行大橋（アーチ下部のみ）
- 北浦大橋（アーチ下部のみ）
- 鰐川大橋

※神宮橋から鰐川大橋間は7:00までスロー

- 洲の野原内の航路

※潮来大橋手前 20m (霞ヶ浦本湖側) から JR 鹿島線の先 20m はデッドスローエリア。
・規模の大小を問わず、霞ヶ浦・北浦内の各所に架かっている橋の下を通過する際 (※利根川の橋は除く)

< 橋梁通過時のルールについて >

■ スロー通過

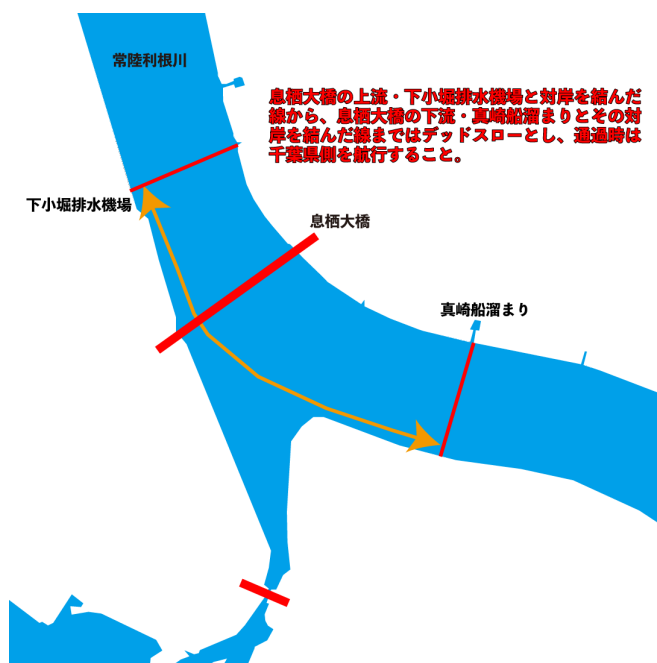
- ・ 鹿行大橋 (アーチ下部のみ)
- ・ 北浦大橋 (アーチ下部のみ)
- ・ 鰐川大橋

※神宮橋から鰐川大橋間は 7:00 までスロー

■ デッドスロー通過

- ・ JR 鹿島線鉄橋～神宮橋
- ・ 息栖大橋

※千葉県側を航行すること (図参照)



- ・ 常陸利根川橋
- ・ 北利根橋
- ・ 霞ヶ浦大橋

＜柏崎の航行ルールについて＞

霞ヶ浦大橋の西詰と柏崎の岬を結んだラインの岸側はスローエリアとする。なお、当該エリア内の菱木川はデッドスロー。



□デッドスローの定義

- ・ 10km/h 以下の航行にて、デッドスローエリアの追い越しは禁止
※おかつぱりの釣り人がいる場合など、状況に応じて 8km/h まで落とすこと

□スローの定義

- ・ 70km/h 以下とし、スローエリアの追い越しは禁止

2025 年 1 月 22 日版
2025 年 1 月 28 日改訂
2025 年 2 月 9 日改訂
2025 年 3 月 29 日改訂
2025 年 4 月 15 日改訂
2025 年 4 月 22 日改訂
2025 年 6 月 5 日改訂
2025 年 6 月 13 日改訂
2025 年 7 月 20 日改訂
2025 年 9 月 4 日改訂